2014
作品ナンバー1039

瀬戸黒 加藤孝造のわざ

記録
フィルム
カラー／37分
日・英語版

■企画
文化庁
■製作協力
東京国立近代美術館
岐阜県現代陶芸美術館
可児市教育委員会
荒川豊蔵資料館
瑞浪市市之瀬廣太記念美術館　丸沼芸術の森　（株）幸兵衛窯　熊谷陶料　堀俊郎　風塾の皆さん

スタッフ
■製作
山本孝行
■脚本・演出
村山正実
■演出助手
土井康一
■撮影
八幡洋一
■撮影助手
藤原千史
■照明
江森清八
■照明助手
野本敏郎
■録音
荒井富保
■効果
帆苅幸雄
■編集
石井香奈江
■ネガ編集
幸地甫之
■タイミング
飯野　浩
■選曲
徳永由紀子
■録音スタジオ
アオイスタジオ
■現像
IMAGICA
■語り
余　貴美子

文部科学省特選　2015年キネマ旬報文化映画ベスト・テン第３位

伝統工芸の分野で国の重要無形文化財保持者（人間国宝）の作品制作を記録する映画では、文字や写真では伝えられない、人間国宝の伝統的な手わざをその動きの中で克明にとらえることが求められる。2010年（平成22年）、加藤孝造（かとうこうぞう）は、重要無形文化財保持者「瀬戸黒」保持者（人間国宝）に認定された。映画は、加藤の「引き出し黒」のわざによって瀬戸黒茶碗を制作する工程を記録するとともに老境の中にあっても自らが追い求める瀬戸黒へのあくなき挑戦を描く。文化庁工芸技術記録映画シリーズを代表する作品である。

瀬戸黒（せとぐろ）とは、志野（しの）、織部（おりべ）、黄瀬戸（きせと）とともに、桃山時代の美濃（みの）で特殊な技法によって焼かれた茶陶である。窯の温度が上がり、釉薬（ゆうやく）が溶けたのを見計らって、長い鉄のはさみを使い、窯から茶碗を引き出す。そこから「引き出し黒」とも呼ばれる。窯から引き出した茶碗を水で急冷して漆黒（しっこく）に呈色（ていしょく）させる。

加藤は、師の荒川豊蔵のすすめで桃山時代の穴窯（あながま）「美濃大窯」とほぼ同じ大きさと構造の窯を築き、作陶を続けてきた。しっとりとした艶のある黒い肌、風格のある形、穏やかな佇まい。手回しの轆轤（ろくろ）で土は形になり、吹き出す炎の中から、加藤でしか表すことのできない“黒の世界”が生まれてくる。

桃山時代以来400年の伝統を育み続けた美濃の歴史を、渾身の力で受け継いだ加藤。その真剣勝負とも言えるわざを、35ミリ映画フィルムの美しく力強い映像で伝える。